



統計資料

ふるさと萩のすがた

Data collection of hometown Hagi

21 2009



萩市総合政策部企画課統計係

〒758-8555

萩市大字江向 510 番地

Tel. 0838-25-3131

Fax. 0838-26-3803

E-mail

toukei@city.hagi.lg.jp

統計表の見方

1. この統計表は、主として平成20年（度）までの各関係機関が所有している資料、すでに刊行されている各種統計報告書、本市各部課から萩市についての統計資料を収録しました。
2. 統計表の「年次」とあるのは暦年（1月から12月）、「年度」とあるのは会計年度（4月から翌3月）を示しています。
3. 統計表は、単位未満の数字を四捨五入しているため、合計と内訳が一致しない場合もあります。
4. 統計数字の出所は各表の脚注に示してあります。
5. 統計表中の符号の用法は次のとおりです。
 - 「－」・・・該当数値なし
 - 「0」・・・単位未満
 - 「X」・・・秘密保持のため発表を差し控えたもの
 - 「△」・・・減少または負数
 - 「…」・・・調査を行っていないもの
6. 本書に収録した統計資料についての疑問や、更に詳細なデータを必要とされる方は、各表ごとに掲げてある資料作成機関・各部課、又は下記へご連絡ください。

萩市総合政策部企画課統計係

〒758-8555

山口県萩市大字江向510番地

TEL (0838) 25-3431・25-3690

FAX (0838) 26-3803

も く じ

《萩市の概要》

1 地勢	1
2 歴史	1
3 産業	3
4 将来像	3
5 姉妹都市(海外)	4
5 姉妹都市(国内)	5
6 友好都市	6

《数字でみる萩市》

7 地区別面積	8
8 位 置	8
9 人口の推移	8
10 地区別世帯数・人口の推移	9
11 人口動態	10
12 外国人登録人口	10
13 産業(大分類)・経営組織・従業者規模別事業所数・従業者数	11
14 農業産出額等	12
15 品種別果樹栽培面積	12
16 農家数・農家人口	13
17 耕地面積	14
18 産業(大分類)別・地区別・15歳以上就業人口	15
19 漁業世帯・就業者数・漁船数	16
20 主とする漁業種類別経営体数	16
21 年間水揚高の推移	16
22 観光客数	17
23 産業分類別商店数・従業者数・年間販売額	18
24 従業者規模別・事業所数・従業者数・製品出荷額等	19
25 市道の状況	19
26 市道における橋りょうの状況	20
27 都市公園	20
28 下水道普及・水洗化等の状況	21
29 水道普及状況	22

30	学校等の状況 23
	(1) 幼稚園の状況 23
	(2) 小学校の状況 23
	(3) 中学校の状況 23
	(4) 高等学校の状況 23
	(5) 大学の状況 23
	(6) 専修学校の状況 23
	(7) 特別支援学校の状況 23
	(8) 各種学校の状況 23
31	社会体育施設 24-26
32	社会教育施設・関係団体 27
33	保育所等の状況 27
34	福祉施設 28-29
35	一般会計歳入決算及び予算の状況 30
36	一般会計歳出決算及び予算の状況 31-32
37	特別会計当初予算の状況 33
38	市税収入 33
39	地方交付税 34
40	市債年度末現在高 34
41	萩市水道事業会計決算の状況 35
42	萩市病院事業会計決算の状況 35

《萩市のあゆみ》

43	萩市のあゆみ 36
44	旧市町村のあゆみ 37-44

萩市民憲章

わたくしたちは、明治維新胎動の地、萩の市民です。この誇るべき歴史と美しい自然が織りなすふるさとを愛し、心のよりどころとなる、あたたかいまちをめざして、この憲章を定めます。

- 一 先人の志と勇気に学び 歴史と文化を大切にすまちをつくりましょう
- 一 青い海と緑の山を守り 詩情豊かなまちをつくりましょう
- 一 健やかなこころを育み 笑顔のあふれる明るいまちをつくりましょう
- 一 互いに助けあい 安心して暮らせる平和なまちをつくりましょう
- 一 進取の気風を受け継ぎ 未来に向かって発展するまちをつくりましょう

(平成18年11月11日制定)

○市の木 ヒノキ、マツ

○市の花 ツバキ、ハギ

○市の果樹 ナツミカン

○市の生物 ホタル

(平成18年11月11日制定)

《 萩市の概要 》

1 地勢

萩市は、山口県の北部に位置し、総面積は698.79K m²で、県土の11.4%に当たります。北部は日本海に面し、東部は益田市（島根県）、津和野町（島根県）、阿武町、南東部は山口市、阿東町、西部は長門市、美祢市に接しています。

地形は、全体として東部の中国山地から北西部の日本海に向かう傾斜地で、南部市境界付近に標高700mを超える山々が連なっています。低地は少なく、阿武川河口部に形成された三角州にある市街地とその周辺地に見られ、丘陵地は、田万川地域から須佐地域にかけての臨海部に比較的なだらかに広がっている程度で、大半を山地が占めています。

日本海の沖あいには、大島、相島、櫃島、羽島、肥島、尾島の六つの平らな火山島が浮かび、はるか40km先には見島があります。そのうち見島、大島、相島、櫃島は有人島です。

気候は、沿岸部においては対馬海流の影響を受けて比較的温暖であり、中山間部においては盆地特有の気候で、変化に富んだ豊かな自然環境を有しています。

2 歴史

歴史は、古くは日本書紀にも見られる長門国の五郡の一つ「阿武郡」にさかのぼります。10世紀前後には長門国阿武郡は周防国とともに後白河院の知行する阿武御領と呼ばれるようになり、東大寺の再建の際には東大寺造営料国として用材の切り出しが行われ、阿武川・大井川流域にはそれにまつわる言い伝えも残されています。

慶長9(1604)年、居城を広島から萩に移した毛利輝元は、三角州に城下町を建設し、以来、廃藩置県に至るまでの260年余り、毛利36万石の城下町として、発展しました。幕末には、吉田松陰など明治維新の原動力となった人材を数多く輩出しました。

明治に入り、萩藩と徳山藩が統一され、山口藩となり、山口・豊浦・岩国・清末の4藩が山口県として統合されました。

明治22(1889)年の「明治の大合併」では、阿武郡内に22の町村が誕生しました。その後、いくつかの町村統合がなされ、昭和30(1955)年には「昭和の大合併」が行われました。この2つの市町村合併により、現在の萩市の基となった旧萩市・川上村・田万川町・むつみ村・須佐町・旭村・福栄村が編成され、平成17(2005)年3月6日には、この1市2町4村が合併し、新「萩市」となり現在に至っています。

◎市域の変遷

年号	明治	大正	昭和	平成
地域	明治22年		昭和30年	平成17年
萩地域	川島村	萩町 大正12年	萩市 昭和7年	
	北古萩町			
	土原村			
	細工町			
	橋本町			
	塩屋町			
	御許町			
	恵美須町			
	唐樋町			
	瓦町			
	江向村			
	米屋町			
	河添村			
	東田町			
	平安古町			
	西田町			
	堀内村			
	津守町			
南片河町				
上五間町				
南古萩町				
下五間町				
呉服町				
吉田町				
油屋町				
古萩町				
古魚店町				
今古萩町				
春若町				
熊谷町				
北片河町				
浜崎新町				
樽屋町				
浜崎町				
今魚店町				
東浜崎町				
椿郷東分村	椿郷東分村	椿東村 大正10年		
椿郷西分村	椿郷西分村	椿村 明治43年		
山田村	山田村			
三見村	三見村			
大井村	大井村			
大島				
相島				
尾島	六島村			
櫃島				
羽島				
肥島				
見島	見島村			
川上地域	川上村	川上村		
田万川地域	上田万村	田万崎村	江崎町 昭和15年	萩市
	下田万村			
	江崎村			
	上小川東分村			
	上小川西分村			
	中小川村			
下小川村	小川村			
田万川町	田万川町			
田万川町	田万川町			
昭和31年 境界変更 (江津・尾浦 須佐町より)				
むつみ地域	片俣村	高俣村	むつみ村	
	高佐上村			
	高佐下村			
	吉部上村			
吉部下村	吉部村			
須佐地域	須佐村	須佐村	須佐町 大正13年	須佐町
	弥富上村			
	弥富下村			
	鈴野川村			
須佐町	須佐町			
昭和31年 境界変更 (江津・尾浦 田万川町へ)				
旭地域	明木村	明木村	旭村	
	佐々並村			
福栄地域	福井上村	福川村	福栄村	
	福井下村			
	黒川村			
	紫福村			
紫福村	紫福村			

3 産業

《農林水産業等》

萩市の産業別就業人口は、第一次産業16.2%、第二次産業19.6%、第三次産業64.1%(平成17年国調)となっています。萩市は全国有数の観光都市として有名ですが、第一次産業の就業者数や生産額のウェイトは高く、県下でも有数の農林水産業地域と位置づけられています。コシヒカリ等の米、「千石台大根」、「山口あぶトマト」などの農産物や「萩の瀬つきあじ」、「萩の真ふぐ」、「須佐男命(みこと)いか」などの水産物は、萩のブランド産品です。また伝統工芸品としては、「一楽二萩三唐津」と呼ばれ、我が国屈指の焼き物である「萩焼」が有名です。

《観光》

萩市は、日本で唯一「江戸時代の地図がそのまま使えるまち」といわれるほど、毛利藩政期に形成された城下町のたたずまいが都市遺産として今なお現存しているまちです。また、吉田松陰をはじめ高杉晋作や伊藤博文など近代日本の夜明けを告げた人々を輩出した「明治維新胎動の地」です。さらには、ホルンフェルスに代表される北長門海岸国定公園指定の美しい海岸線、東洋一小さい活火山である笠山、国指定天然記念物の明神池、国指定名勝の長門峡など海、山、川のすばらしい自然に恵まれています。

萩市は、まさにまちじゅうが屋根のない博物館のようであり、これらの歴史・文化遺産、自然を保存・活用したまちづくり、観光地づくりを、「萩まちじゅう博物館構想」と称して構想実現に向け取り組んでいます。この「萩まちじゅう博物館構想」への高い評価や水の都・萩の景観を川から眺める「萩八景遊覧船」の就航、「はぎ温泉」の開湯、「おもてなし」の推進などにより観光客も近年増加傾向にあります。さらに、現在、萩反射炉、松下村塾、恵美須ヶ鼻造船所跡などの資産で構成する「近代化産業遺産群」の世界遺産登録を目指すとともに、萩固有の有形・無形の資産を活用し、新たな観光形態である「学ぶ観光」・「教育観光」にも取り組んでいます。

4 将来像

萩市の将来像を「誇るべき歴史と美しい自然が織りなすふるさとを愛し、心のよりどころとなる、あたたかいまち」と定めています。これは、近代社会の礎を築いた先人の志と勇気に学び、市民が主体的に地域課題の解決に取り組み、お互い助けあい、安心して暮らせるまち、豊かな自然や歴史・文化を守り、後

世に引き継ぐとともに、未来に向かって発展するまちを目指すものです。

5 姉妹都市

海外

ウルサン 蔚山広域市（大韓民国）

提携年月日 昭和43（1968）年10月29日

蔚山広域市は、朝鮮半島東南部に位置し、古来より朝鮮半島と世界を結ぶ海上交易の拠点として栄えました。1962年に特定工業地区に指定されてからは、自動車、造船、石油化学産業を中心とした韓国最大の重工業都市として知られています。

蔚山広域市と旧萩市とは、大韓民国と日本間において至近の距離にあることから、両市の交流を深め、以て両国の親善を促進するために国交回復後間もなくの昭和43（1968）年に両国間で最初の姉妹都市提携を結びました。

ユーリングゲン・ビルゲンドルフ（ドイツ連邦共和国）

提携年月日 平成4（1992）年6月12日

ユーリングゲン・ビルゲンドルフは、スイス国境近くに位置し、森林と草地に囲まれた保養地であり、1973年にドイツ連邦食糧農林省主催の「わが村は美しく」コンクールで金賞を授賞するなどグリーンツーリズムの先進地として知られています。

ユーリングゲン・ビルゲンドルフと旧旭村とは、「農村自然景観と歴史的な遺産の保全」を基調とした共通のまちづくりが行われていることから、平成4（1992）年に姉妹都市提携を結びました。

トッチンミョン 徳津面（大韓民国）

提携年月日 平成15（2003）年6月18日

徳津面は、朝鮮半島南西部に位置し、百濟時代に日本に漢字を伝えたとされる王仁博士の故郷として有名な全羅南道チョルラナンド霊巖郡ドンギョムに属する農村地域で、梨、緑茶、さつまいもなどの特産品があります。

徳津面と旧福栄村とは、共に農業を中心とした産業構造であることから交流が始まり、相互の農業技術の研鑽を深めながら市民交流の発展を願い、平成15（2003）年に姉妹都市提携を結びました。

国内

下田市（静岡県）

提携年月日 昭和50（1975）年10月28日

下田市は、伊豆半島の南部東側に位置し、天城山系と太平洋の美しい景観や、1854年の「日米和親条約」締結による日本の開港地となったことで知られています。

下田市と旧萩市とは、一方は日本の開国に先鞭をつけた地、また一方は明治維新胎動の地という共に歴史の街であり、幕末期、萩出身の明治維新の先覚者吉田松陰らが、下田沖に停泊中のペリー艦隊の船に乗り込み、アメリカ合衆国への密航を企てたという深い関わりがあることから、昭和50（1975）年に姉妹都市提携を結びました。

鎌倉市（神奈川県）

提携年月日 昭和54（1979）年11月2日

鎌倉市は、三浦半島の付け根に位置し、12世紀末に源頼朝が幕府を開いた古都として知られる世界的な観光地です。

鎌倉市と旧萩市とは、共に日本史にその名を刻むなど歴史的なまちとして背景が似ていることから、鎌倉市の市制施行40周年行事として、市民アンケート等を行い旧萩市を姉妹都市にふさわしいまちとして選定されました。こうした経緯により昭和54（1979）年に姉妹都市提携を結びました。

輪島市（石川県）

提携年月日 平成2（1990）年10月16日

輪島市は、能登半島の北西部に位置し、能登半島の美しい自然景観をはじめ、伝統工芸の「輪島塗」や日本三大朝市といわれる「輪島朝市」、勇壮な「御陣乗太鼓」などで知られています。

輪島市と旧萩市とは、「輪島塗」と「萩焼」という日本を代表する伝統工芸を共に受け継ぎ、また、日本海側に同じく位置し、漁業や観光が主要産業であるなど類似点が多いことから、平成2（1990）年に姉妹都市提携を結びました。

6 友好都市

世田谷区（東京都）

提携年月日 平成8（1996）年10月26日

世田谷区は、東京都の西南端に位置し、東京23区の中で最大の人口を有する特別区で、文化・芸術の発信地としても知られています。

世田谷区は、萩藩毛利家とも関わりのある土地柄で、若林には、萩市と同様に吉田松陰を祀る「松陰神社」があります。これを縁に、1992年にお互いの商店街などの民間交流が始まり、旧萩市時代の平成8（1996）年には友好都市となり、現在も毎年、世田谷区若林では「萩・世田谷幕末維新祭り」が開催されています。

前橋市（群馬県）

提携年月日 平成14（2002）年12月18日

前橋市は、群馬県の中南部に位置し、明治時代には、製糸業で栄えた群馬県の県庁所在地です。

前橋市では、萩出身で吉田松陰の妹婿でもある楫取素彦が初代群馬県令として、同市を県庁所在地として定め市勢発展の礎を築いたことや、県の教育や産業振興に力を注いだことの功績を多とされており、これを縁に旧萩市時代の平成14（2002）年に友好都市提携を結びました。

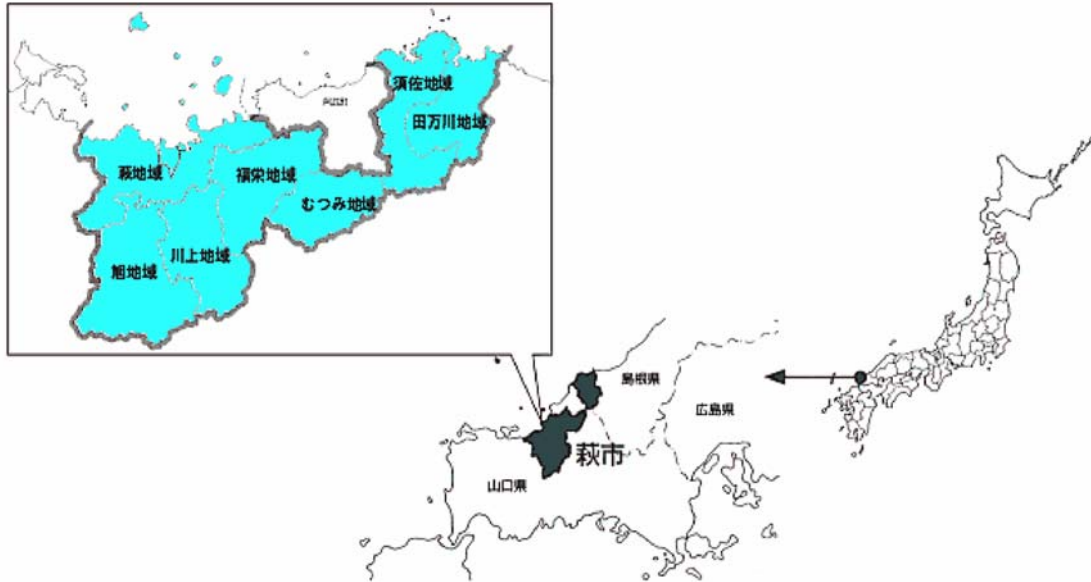
周南市（山口県）

提携年月日 平成15（2003）年10月22日

周南市は、山口県東南部に位置し、全国有数の石油コンビナート地帯が瀬戸内海に沿って広がる工業都市です。

周南市と旧須佐町とは、瀬戸内海側と日本海側を結ぶ主要幹線国道315号の起点・終点であることや、藩政期、須佐地域を領した萩藩永代家老の益田親施が、禁門の変の責めを負って周南市徳山で自決した歴史的なつながりがあることから交流が深まり、平成15（2003）年に友好都市提携を結びました。

◎萩市位置図



◎萩市姉妹都市・友好都市位置図

